

日枝小の子どもたちの大活躍劇! その3 パタゴニア横浜・関内 ストアスタッフ見参!



パタゴニア横浜・関内ストアのスタッフ5名は、子どもたちのわかりやすく、しかもしっかりと連携した見事な活動発表に耳を傾けていました。その後には、じっくりと自然環境とゴミに対する考え方を説明し、今後どのようにしていったらいいかを子どもたちと一緒に考えていました。

運河パレードでの子どもたちの発表に感動!

3月8日、この日はアメリカのアウトドア用品メーカーのパタゴニア横浜・関内ストアスタッフと、当NPO 豊田理事長、日枝小4年3組との合同授業が行われました。そもそも、昨年11月10日に行なわれた大岡川運河パレードでのこと。4年3組の子どもたちは、日本丸メモリアルパークで、豊田理事長と活動報告会を開催。その時たまたまパタゴニア横浜・関内スタッフの方がこの発表を見て、うちのお店でもみんなに発表してもらうことはできますか? という問い合わせがきっかけで実現したのです。

パタゴニアの取り組みと子どもたちの取り組みに共通点があった

4年3組の子どもたちが提案した「給食の牛乳ストロー使わない大作戦」は、子どもたちが本当に牛乳飲むにはストローが必要なのかという原点に立ち返った考え方がベース。牛

乳飲むのにストローはなくてもいい。なら、ストローがなくても飲みやすいパッケージにしてしまえばいいと考えて、みんなでパッケージデザインを考えたのです。

パタゴニアも企業としての責任として、またアウトドアメーカーとしての責任として、特にプラスチックゴミについては早い時期から問題視して、その対策を講じて来ました。それはうわべだけの環境対策ではなく、子どもたちの考えたことに似た、ものを本質的なところから見直して考える。まさにそこに大きな共通することがあったのです。

デポジット制というパタゴニア流の考え方

子どもたちの中で、買い物の際にはレジ袋をもらわなければいい、レジ袋が必要なのは500円で売ればいいのかという意見が飛び交う中、市原さん(パタゴニア横浜・関内ストア店長)はこの日こんな話をしてくれました。

「パタゴニアでは、基本にお買い求めいただいた品物を入れる袋を用意していません。お客様の持って来たバッグに入れていただくのですが、どうしても入れるものがないという場合もあります。そんな時、この袋は有料です。1枚100円のお金を預からせていただきます。次にお店に来ていただいた

際にこの袋をご返却いただけたら、お預かりした100円は返却いたします。こんな仕組みがパタゴニアにはあるんです」

この話を聞いた子どもたちは、今まで自分たちの間では考えたこともないデポジット(保証金)制という新しい発想に目を輝かせていました。

サーキュラーエコノミーの考え方の原点がすでにあった

また、パタゴニアのこのデポジット制の袋は、そもそも工場から店舗に運ぶ際に使用するプラスチック袋の素材を開発の時点からリサイクル可能なものに定め、使用した袋はこのデポジット制の袋に生まれ変わります。また、お客様に貸し出した袋も、返却時にはかなりくしゃくしゃになっています。これを再びリサイクルで、お客様用の袋になる。このように一つの材料が、何度もリサイクルされて、無駄になることもないし、ゴミとなることもない。パタゴニアのこの取り組みはもうすでに10年以上も前から、今になって企業の間で

話題となっている「サーキュラーエコノミー」(単なる資源循環にとどまらず、最初のデザインの時点から環境負荷のない素材を使用して、価値創造の最大化をはかる考え方)の原型とも言える考えをすでに採用していたことです。

さすがに子どもたちにはここまでの奥深い話は理解できていなかったか

もしれませんが、おそらく子どもたちの新鮮な感性は、何かしらの電波をキャッチしたはずで



マイバッグ持参を奨励するとともに、無意識に消費され、廃棄、埋め立て処分されるプラスチック袋を削減するためのデポジット制の袋。

としても、もう次のことを考えて行動しなければならぬ、ぜひみなさんと一緒に

に考えたり行動したりしましょう、という話でこの日は終わりました。

日枝小の子どもたちの大活躍劇! その4 目白大学児童教育学科 学生たちとのセッション授業

次の活動につながることをどんどん実践する姿に驚き!

2月5日、目白大学人間学部児童教育学科・石田好広教授のもとで、小学校教諭を目指し日々研鑽を重ねるゼミの学生が6名、日枝小4年3組で子どもたちと海のゴミについてセッション授業を行ないました。

授業が終わって学生たちに感想を聞くと、「子どもたちと意見交換の場となってくれてすごく有意義でした。かなり刺激受けました」、「受け身の学習だったらここまでの発表はできないです。活動に対して本気だからこそ、あれだけしっかりとした発表ができるんですね」、「すごいのは、どんどん次の活動につながることを実践していることです」。



目白大学・石田ゼミで、石田教授と小学校教諭を目指す学生たち。左から、茂戸藤さん、赤地さん、石田教授、三浦さん、菊名さん、宮嶋さん。(※久野さん当日欠席のため不在)

未来の小学校の先生たちにさらに期待したい!

いまや環境教育は、SDGsの内容も含めて小学校の教科にさまざまな形で関わってきています。しかし、環境教育は、何かしらのアクションを起こしても、その成果が見えてくるのにも時間がかかります。そんな手探りな要

素が多い中、ゼミの学生たちは、ゴミ拾いの活動などにも積極的に参加したり、オリジナルの海ゴミ劇などをわかりやすく見せたり若いセンスで挑戦しています。今後、当NPOでも石田ゼミの学生たちと連携し、多様な活動の場を提供したり、協働の取り組みを展開していく予定です。



ゴミ拾いなどの活動にも参加しているものの、基本的にはパソコンなどからデータ収集していた学生たち。ゴミや生き物たちの情報を具体的に現場で得てきた子どもたちとのセッション授業を通じての意見交換で、子どもたちの発想の豊かさに大いに刺激を受けたという。



パタゴニア横浜・関内ストア店長の市原社一さん。茅ヶ崎に住む、根っからのサーファー。

総合建設業 **株式会社 キクシマ**
www.kikushima.co.jp

注文住宅建築・集合住宅建築・教育施設建築・福祉施設建築・商業施設建築
耐震補強工事・リフォーム・リノベーション・鉄骨製作工事

☎ 0120-96-6663 本社: 横浜市港南区港南台 4-39-7

YOKOHAMA ISEBURA POUND
いせぶらパウンド

YOKOHAMA ISEBURA POUND
合名会社川本屋商店
横浜市中央区伊勢佐木町 6-146 ☎045-261-7652